

視覚障害者のための音による誘導装置の開発

永幡 幸司 ・ 高橋 隆行

(共生システム理工学類人間支援システム専攻)

視覚障害者にとって、**聴覚情報**は1つの重要な情報源である。それ故、これまでも、視覚障害者を対象とした**音**による情報提示の方法は数多く開発されてきている。しかしながら、それらの全てが当事者に活用されているわけではない。その理由の1つとして、システムの開発に当事者の声が十分に反映されてきたわけではないことが挙げられる (Nagahata, 2005)。

そこで本プロジェクトでは、システム開発の初期段階から**当事者の意見を十分に反映できる体制**をつくり、「視覚障害者が**どのようなコンテクスト**で、**どのような情報**を、**どのような形**で提示されることを望んでいるのかを踏まえた、視覚障害者のための**音**による誘導装置」を開発することを目指す。

Koji Nagahata, "Why are Inappropriate Barrier-free Acoustic Designs for Visually Impaired Persons Provided?," J Physiol Anthropol Appl Human Sci 24(1), 45-49, 2005

超音波による障害物・
ランドマーク検出と、
音による誘導装置

